

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学年	2 年	
教科等名		化学基礎		学習グループ（教育課程）	C（準ずる 進学重点）	
ねらい		（知・技）実験、観察などを通じて化学反応に関する基本的な概念や法則を理解する。 （思・判・表）原子の構造及び電子配置と周期律の関係、化学結合と物質の性質との関係を理解する。 （主）化学と人間生活との関わりに関心を高め、化学が人間生活に果たしている役割を理解する。				
担当教員		櫻井 泰子.				
年間授業時数		71 単位時間				
使用教科書		改訂 新編化学基礎（東京書籍）				
月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容、ねらい（評価の観点）		指導の工夫	
4	化学と人間生活	2	○物質と人間生活、化学とその役割、歴史 ◆日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通じて、化学に対する興味・関心を高める。 ◆日常生活や社会において物質が適切に使用される例を通じて、化学が果たしている役割を理解すること。		・日常生活や社会との関わりが特に深い事例を取り上げる。	
5	物質の探求 物質の構成粒子	10 5	○物質の分離に関する種々の化学的方法と操作、状態変化、熱運動 ◆物質の分離、成分元素の確認、物質の性質観察などの基本的な実験操作を習得する。 ◆粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解。 ○原子の構造、電子配置と周期表 ◆原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解。 ◆元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族と周期との関係に理解。			・原子のモデルを使い、原子の構造及び電子配置のイメージをもちやすくする。
6						
7						
9	物質と化学結合	15	○イオンとイオン結合、金属と金属結合、分子と共有結合 ◆イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。 ◆金属結合及び金属の性質を理解すること。 ◆共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。分子からなる物質の性質を理解すること。		・ICT 教材を活用して、微視的な物質の見方ができるようにする。	
10						
11	物質と化学変化	16	○物質と化学反応式 ◆物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ◆化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。		・相対質量の考え方を定着させる。 ・指数の表し方を確認する。	
12						
1	酸と塩基	13	○酸・塩基と中和 ◆酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。		・実験、観察を通じて物質の量的関係や電子の授受について考えられるようにする。	
2	酸化還元反応	10	○酸化と還元 ◆酸化と還元が電子の授受によることを理解する。酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。			
3						

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		英語コミュニケーションⅡ	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばし、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 （思・判・表）世界の言葉、文化、民族を知り、全員が調和を保ち共生する方法や大切さを考える。 （主）英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。		
担当教員		飯田拓		
年間授業時数		1 4 4 単位時間		
使用教科書		VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	Lesson 1 World Dance Performances	1 7	○「さまざまな伝統舞踊についての概要」の英語長文読解・英文法。 ◆〈動詞+目的語+to 不定詞〉、〈疑問詞+to 不定詞〉に関する事項を理解している。	・学習状況に応じて、プリントなどの課題を用意する。
5	Lesson 2 A Piece of Cake	1 8	○「英語と日本語の慣用句についての概要」の英語長文読解・英文法 ◆疑問詞や if で始まる節に関する事項を理解している。	・定型文を使ったり、音読を行ったりして英語を話す機会を増やす。
6	Lesson 3 Quokka	1 8	○「クオッカについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆使役動詞と知覚動詞に関する事項を理解している。	・練習問題などを取り入れ、文法への理解を深める。
7	ALT		○ALT ◆英語を使ってやりとりできるようになる。	・教科書の表現を使い、自分の考えを発表する。
9	Lesson 4 Designing Stamps	1 8	○「玉木明さんへのインタビューについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆形式主語 it と形式目的語 it に関する事項を理解している。	・適宜、助言を行い、間違いを恐れず、ALT と話しやすい雰囲気を作る。
10	Lesson5 Mont-Saint-Michel	1 7	○「モン・サン・ミシェルについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆現在完了進行形／過去完了形／過去完了進行形に関する事項を理解している。	
11	Lesson6 Smart Agriculture	1 8	○「スマート農業についての概要」の英語長文読解・英文法 ◆現在完了形の受け身／助動詞+受け身に関する事項を理解している。	
12	ALT		○ALT ◆自発的に英語を使ってやり取りする。	
1	Lesson 7 A Martial Art on Tatami	1 8	○「競技かるたについての概要」の英語長文読解・英文法 ◆関係代名詞の非制限用法／関係代名詞 what に関する事項を理解している。	
2	Lesson 8 Biologging	2 0	○「バイオロギングについての概要」の英長文読解・英文法 ◆分詞構文／強調構文に関する事項を理解している。	
3	ALT		○ALT ◆自発的に英語を使ってやり取りする。	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		音楽 I	学習グループ (教育課程)	C (準ずる・進学)
ねらい		(知・技) 音楽の構造や文化的・歴史的背景及び多様性についての理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 (思・判・表) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。 (主)主体的・協働的に音楽活動に取り組み、自他の表現を尊重し共に音楽を作り上げることがを体験し、音楽によって生活を豊かなものにしようとする。		
担当教員		津田 直子		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		MOUSA I (教育芸術社)		
月	単元 (題材) 名	指導 時数	○主な学習内容、 ◆ねらい (評価の観点)	指導の工夫
4	「合奏しよう 1 リズムアンサンブル」	12	○楽典：音高やリズムの記譜の仕方を知る。音楽用語を知る。 ◆簡単な楽譜を読むことができる。 ○器楽：ドラム、和太鼓等打楽器での合奏に取り組む。 ◆基本的なリズムパターンを覚えてたたくことができる。相手の演奏を聴いて合わせることができる。 ○声楽：日本語、外国語の声楽曲を取り入れる。 ◆言葉とリズムとの関わりを感じながら歌うことができる。歌詞を味わいながら歌う。	・楽典は通年で取り組む。 ・パートごとに練習をしてから合わせるようにする。パートを交換して相手の演奏を知る。
5				
6				
7	「歌って表現しよう」	12		
9	「合奏しよう 2 鍵盤楽器」 「世界の音楽・日本の音楽を鑑賞しよう」	11	○器楽：キーボードでのアンサンブルに取り組む ◆楽譜の違いを知り、演奏し音色を味わう。	・生徒の特性に応じて鍵盤の大きさやピアノなど楽器を選ぶ ・クラシック、邦楽の他にポピュラー音楽など必要に応じて取り上げる。
10		15	○鑑賞：音楽史について学びその時代の代表的な音楽を鑑賞する。 ◆鑑賞に興味をもち音楽への理解を深める。 ◆邦楽についての理解を深める	
11				
12				
1				
2	「合唱しよう」	20	○卒業ソングを取り上げて合唱または二重唱をする。 ◆相手の声を聞きながら併せて歌う経験をする。	・パート練習を聴きあう活動も取り入れる。 ・必要に応じてマイクを使用して歌うことも経験する。
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		家庭総合	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		(知・技)生活を営むために必要な科学的な理解とその技能を総合的に身につける。 (思・判・表)家庭や地域社会の生活から課題を見出し、課題を解決する力を身につける。 (主)様々な人と協働しよりよい社会に向けて生活の充実を図ろうとする態度を養う。		
担当教員		上野 はつえ		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		未来へつなぐ 家庭総合365（教育図書）		
月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	ガイダンス	6	○1年間の学習予定を把握する。 ◆家庭総合の学習に見通しをもつことができる。 自立に向けて身につけたい力を考える。（主）	・シラバス、学びの地図を提示する。
5	食生活と健康 （実習含む）	16	○栄養素と食品、食品の安全について知る。 ◆栄養素、安全について踏まえたうえで献立を立て、調理計画を立てることができる。（知・技） ◆工夫によっておいしく調理したり食べたりすることができることに気付き、工夫できる。（思・判・表）	○生徒が考えた献立や調理方法を実践し、実体験に基づいて気付いたり考えたりできるようにする。
6			○持続可能な食生活や災害時の食事について考える。 ◆持続可能な食生活や、災害時の食事を実践するために工夫できる。	・インターネット等で情報収集をし、お互いの考えを聞く機会を設ける。
7	衣生活と健康	3	○衣服の計画・管理について理解する ◆自分に合う衣服について考える、実践する。 ○実生活の衣生活の課題を見つけ、その解決策を考え、実践する。 ◆衣生活の課題を設定し、解決策を工夫できる。	・動画などの教材を用意し、実際の場面を想像できるように配慮する。 ・洗濯・アイロンがけの実習を含む。
9	ホームプロジェクト	6	○生活上の課題を設定し、解決に向けて探求する ◆課題を設定し、解決策を工夫できる。	・具体例を用意し、想像しやすくする。
10 11	衣服・布を用いた小物の製作	14	○被服実習 ◆製作に必要な、用具を安全に扱うことができる。	・使いやすい道具などを把握し、準備する。
12	住生活と住環境	7	○人と住まいとのかかわりや住まいの機能について理解する。将来の生活を考えて住まいを想像する。 ◆自分の住まいについて、課題を見つけ工夫できる。	・インターネット等を活用して情報収集し、暮らしを想像しやすくする。
1	生活における経済の計画、生涯の生活設計	6	○家計のしくみについて理解し、家計は社会と密接にかかわっていることを知る。 ◆例や自分の将来を考えて問題を見出し、その課題を解決することができる。 ○生活資源とライフスキルについて理解する ◆将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活を設計することができる。	・シミュレーション教材を活用して、理解を深めやすいよう工夫する。 ・今までの学習を踏まえたまとめとして学習できるように工夫する。
2	消費生活と意思決定	6	○消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解する。 ◆自分の消費行動について客観的に考えることができる。	
3	持続可能なライフスタイルと環境	6	○環境問題について基本的な内容を理解する。 ◆自分の消費行動が社会に与える影響について理解し、どう行動したらよいかを考えることができる。	・ニュースを調べるなど、情報収集を工夫する。

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		体育	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解し、高度な知識や技能を深める。 （思・判・表）運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育む。 （主）健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。		
担当教員		新田真 福島聡 長岡優花 上野はつえ 荒屋澄枝		
年間授業時数		76 単位時間		
使用教科書		最新高等保健体育（大修館書店）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	体づくり運動	4	○ストレッチ、サーキット運動 ◆身体の各部位を意識して動かすことができる、または動かそうとしている。（主）	・手本を示し動作を取り入れ模倣できるようにする。
5	陸上競技	2	○課題走、スラローム走、リレー走など ◆自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。（思・判・表） ◆記録の向上をめざし主体的に運動へ参加する。（主）	・道具を提示し、主体的に課題を発見できるようにする。 ・徐々に教職員の補助を減らす。
6		6		
7		6		
9	水泳	2	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。（知・技） ◆さまざまな浮き方や泳法の基礎となる動きを身に付けることができる。（知・技）	・浮き具を使用することで、水中での不安を軽減できるようにする。 ・始めは動きを補助し、徐々に一人で反復できるようにする。
10		4		
11		4		
12	ダンス	8	○空手の歴史、基本動作、形など ◆空手の歴史や基本動作・形などについて知り、理解を深めることができる。（知・技） ◆自己の課題を理解し、練習に取り組むことができる。（主）	・ICT 機器を使用し動作を分割して分析できるようにする。 ・個の実態に応じた道具の設定を行う。
1	球技（ハンドサッカー）	6	○リズム体操、創作ダンス ◆身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。（思・判・表）	・大画面のプロジェクターを使用する。
2		8	○ドリブル、パス、シュート ◆自己の課題を見つけ取り組める。（思・判・表） ◆友達と協力して練習や試合に参加することができる。（主）	
3		6		

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		保健	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）健康に関わる対策，環境衛生に関わる活動について，理解することができる。 （思・判・表）健康を支える環境づくりなどと，解決方法を関連付けて考え，適切な整備や活用方法を選択し，それら説明することができる。 （主） 自他や社会の健康の保持増進や回復についての 学習に主体的に取り組もうとすることができる。		
担当教員		笠原 陸		
年間授業時数		37 単位時間		
使用教科書		現代高等保健体育（大修館書店）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	生涯を通じる健康	19	○ライフステージと健康 ◆生活年齢と健康の関連性を理解している。 ○思春期と健康 ◆思春期の体の仕組みを理解する。 ○性意識と性行動の選択 ◆性行動の選択に関して理解する。 ○妊娠・出産と健康 ◆妊娠時・出産時の健康理解をする。 ○避妊法と人工中絶法 ◆避妊法について理解し説明ができる。 ○結婚生活と健康 ◆結婚生活に及ぼす健康について理解している。 ○中高年期と健康 ◆中年期の健康について理解し説明できる。 ○働くことと健康 ◆働くことの健康について理解し説明できる。 ○労働災害と健康 ◆労働災害に関して理解し説明できる。 ○健康的な職業生活 ◆職業と健康との関連を理解し説明できる。	・互いの意見を発表する機会を適宜設ける ・自分で調べる機会を設ける。 ・身近な健康問題を取り入れ授業を展開する。
5				
6				
7				
9	健康を支える環境づくり	18	○大気汚染と健康 ◆大気汚染について理解し説明できる。 ○水質汚濁、土壌汚染と健康 ◆水質汚濁、土壌汚染と健康の関連を説明できる。 ○環境と健康にかかわる対策 ◆環境と健康にかかわる対策について説明できる。 ○ごみの処理と上下水道の整備 ◆ごみの処理と上下水道の整備について説明できる。 ○食品の安全性 ◆食品の安全性について理解し説明できる。 ○食品衛生にかかわる活動 ◆食品衛生にかかわる活動について理解し説明できる。 ○保健サービスとその活用 ◆保健サービスとその活用法を理解している。 ○医療サービスとその活用 ◆医療サービスとその活用法を理解している。 ○医薬品の制度とその活用 ◆医薬品の制度とその活用を理解している。 ○さまざまな保健活動や社会対策 ◆さまざまな保健活動や社会対策について理解し説明できる。 ○健康に関する環境づくりと社会参加 ◆健康に関する環境づくりと社会参加について理解し説明できる。	・個に応じたプリントを作成する。
10				
11				
12				
1				
2				
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		総合的な探求の時間	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付けることができる （思・判・表）集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に伝える力を育む。 （主）探求活動に主体的、協同的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとすることができる。		
担当教員		長岡優花 福島聡		
年間授業時数		35 時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	学習グループオリエンテーション 話し合い活動 生徒会活動 学習グループ校外学習事前学習、事後学習 学期のまとめ	1 1 2	○学習・行事予定の確認 ◆見通しをもって、活動に取り組むことができるようになる。 ○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○校外学習事前・事後学習 ◆意欲的に自分の役割に取り組むことができる。行程を理解し、見通しをもつことができる。 ○学期のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	・デジタルやICT機器を活用しながら、学びの過程を自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるようにする。 ・活動内容や役割分担を明確にする。 ・生徒会活動においての話し合いの場面では、「気付き」を促す言葉掛けを行い、体験的に学習できるようにする。
5				
6				
7				
9	話し合い活動 生徒会活動 学期のまとめ	1 4	○自己理解・他者理解（話し合い活動） ◆様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に表現することができる。 ○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○学期のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	・自分の意見や考えを整理して、集団の中で伝えられるよう、発表の機会を多く設ける。
10				
11				
12				
1	話し合い活動 生徒会活動 1年間のまとめ	8	○生徒会活動 ◆主体的に話し合いに参加できる。 ◆学部行事の企画、運営を行うことができる。 ○1年間のまとめ ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付くことができるようになる。	
2				
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		特別活動・ホームルーム活動	学習グループ（教育課程）	
ねらい		(1) 学年の友達との関わりを通し、豊かな人間関係を築く。 (2) 活動を通じて行事への見通しをもつ。 (3) 友達や教職員とのコミュニケーションを広げる。		
担当教員		教員： CG：		
年間授業時数		40 単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	高2年生のスタート	14	○2年生の集団紹介、1年間の行事紹介、係り活動決め等 ◆今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。	・学年の友達との関わりを通し、豊かな人間関係を築く活動を設定する。 ・行事に合わせた活動を設定する。 ・個々の自主性を引き出すために、活動内容を生徒が決める機会を設定する。
5	体育発表会に向けて		○体育発表会に向けて練習や準備を行う。 ◆本番に備えて期待感を膨らませる。 ◆行事を振り返り成功体験を生徒間で共有する。	
6	レクリエーション活動		○ペーパー相撲等のレクリエーション ◆友達同士で協力して関わりを深める。	
7	修学旅行に向けて（事前学習）		○修学旅行に向けて準備をする。 ◆日程や場所を知り、目標や係等を決める中で宿泊の見通しをもつ。	
9	修学旅行に向けて（事前学習、事後学習）	15	○修学旅行に向けた準備、事後学習をする。 ◆日程や場所を知り、目標や係り等を決める中で宿泊への見通しをもつ。 ◆行事を振り返り成功体験を生徒間で共有する。	
10				
11	レクリエーション活動		○季節の行事、ジェンガ、坊主めくり、すき焼きゲーム等のレクリエーション ◆友達同士で協力して関わりをさらに深める。	
12	学期のまとめ		○2学期の学習活動、また個人の成長を振り返る。 ◆次学期につながる振り返りを行う。	
1	レクリエーション活動	11	○季節の行事、ジェンガ、坊主めくり、すき焼きゲーム等のレクリエーション ◆友達同士で協力して関わりをさらに深める。	
2	1年のまとめ		○一年間の学習活動、個人の成長を振り返る。 ◆今年度を振り返ることで次年度に繋げる。	
3				

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高学部	学 年	2 年
教科等名		国語表現	教育課程	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）社会に必要な国語の知識を深めたり、技能を身に付けたりすることができる。 （思・判・表）言葉で的確かつ効果的に表現する能力を育成し、他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えにつなげる。 （主）共感したり想像したりする力を伸ばし、自ら表現することを通して、社会生活の充実を図る態度を育てる。		
担当教員		長岡優花		
年間授業数		73 単位時間		
使用教科書		国語表現 大修館書店		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	伝える、伝え合う	6	○他己紹介をしよう ○マイニュース記事を書こう ◆自分の考えを的確に表現する。	・生徒の実態に合わせながら、オンライン授業や課題提出ができるように、Teams を活用する。 ・論理的文章を書くための基礎・基本を学習してから実践に入る。 ・生徒が想定しやすいように具体的な場面を設定し、体験的に学習できるようにする。 ・話し合い活動を多く取り入れて、自己理解と他者理解を指導する。 ・生徒の様子をよく観察し、その場ですぐに褒めて、自己肯定感の向上につなげる。
5	メディアを駆使する	8	○通信文を書き分ける○手紙のいろいろ ○電話を使いこなす ○電子メール ◆コミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に活かす。	
6	自己 PR と面接	9	○自分を見つめて ○効果的な自己 PR ○面接 ◆自己を知ることによって様々な表現の土台を作り、進路や社会と自分の関係を考える。	
7	表現を楽しむ	5	○言葉で遊ぶ ○ポスター作り ◆多種多様な言葉の世界を体験しながら、音の響きや意味の広がり豊かなさを学ぶ。	
9	言葉と出会う	7	○言葉と表記 ○わかりやすい文を書く ○文のつなぎ方 ◆基本的な表記の決まりや正しい使い方を理解する。	
10 11	小論文・レポート入門	12	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。 ○文章を読み取って書く○課題文型小論文 ◆文章の「型」を習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。	
12	会話・議論・発表	7	○グループディスカッション ○スピーチをしよう ◆声を発する具体的な場面を想定した学習を通して、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	
1	読書の広場	6	○ビブリオをしよう ◆自分の考えを的確に伝える。	
2 3	表現を楽しむ	13	○模擬裁判をしよう ◆根拠を理解しながら聞き取る。議論を通して考えを広げる。	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		論理国語	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 （思・判・表）論理的・創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 （主）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
担当教員		松島理絵		
年間授業時数		72単位時間		
使用教科書		高等学校 標準論理国語(第一学習社)		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	・進化が導き出した答え ・新しい地球儀	6	○生物の進化における多様性を理解し人間の生き方に照らし合わせて考えを深める ◆内容や構成、論理の展開をとらえ要旨を把握する。	・主題を導き出すキーワードを見つける。 ・文語表現を丁寧に解説する。 ・他の実用的な文章も用意し、多く触れられるようにする。 ・キーセンテンスを確認し、それを中心にまとめるようにする。 ・難しい言葉は、辞書を引いて確認するようにする。 ・繰り返し音読する。 ・ワークシートを活用し、読解を深める。 ・適宜、言語事項（語彙、漢字、文法等）に取り組む
5	・数え方で磨く日本語	8	○日本語のものの数え方、文化的特徴を理解する ◆論理の展開を捉え、論点を明確にして要旨を博する	
6	・名所絵はがきの東西	9	○筆者が東西の自然観をどのように捉えているか把握し、自分の考えを深める ◆根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する	
7	・名所絵はがきの東西	4	○筆者の主張する日本人の自然観を捉えそれに対する考えをまとめる ◆単元の内容を理解し、筆者の主張を捉えながら自分の考えをまとめ発表する	
9	・情けは人の・・・	7	○言葉の正しい意味を知るとともに、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る ◆内容や構成、論理の展開を捉え、論点を明確にし内容を把握する	
10	・犬も歩けば棒に当たる	6	○一つのことわざについて複数の解釈を提示し、日本語の多様性について理解する◆筆者と自分の言葉の解釈について比較しまとめる	
11	・バラと通貨はどう違う？	7	○通貨とバラの性質を対比し、通貨の本質を理解する ◆論点を明確にしながら用紙を把握する	
12	・ヒトはなぜ人になったのか	7	○因果関係、論理構成の把握からトの進化過程を知る ◆新出語句の意味や漢字の読み書きを理解する。	
1	・共同性の幻想	6	○同調圧力の社会的背景から現代の人間関係を考える◆現代の人間関係について自分の考えを深める	
2	・鏡としての他社	6	○筆者の主張を読み取り他社が事故に与える影響を考える◆文章の構成、展開を理解する	
3	・実用文	6	○実用文のルール、書き方の工夫を理解する ◆書き手の立場や目的を考え内容を解釈する	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		歴史総合	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
担当教員		木下徹		
年間授業時数		70 単位時間		
使用教科書		歴史総合 わたしたちの歴史 日本から世界へ(山川出版社)		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	18 世紀の世界とアジア	5	○「近代化」について ◆18 世紀の日本やアジア・ヨーロッパの結びつきを理解する。	(年間を通じて) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養う。 近現代の歴史の変化に関わる諸事象につて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
5	産業革命	5	○欧米諸国における近代化 ◆欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したか理解する。	
6	日本開国期の国際情勢	5	○近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家を形成していったのか理解する	
7	富国強兵と文明開化 帝国主義	5	○アジア諸国の動揺と日本の開国 ◆近代化した欧米諸国の進出にアジア諸国や日本はいかに対応したのか理解する。	
9	第一次世界大戦と日本 国際協調	6	○「国際秩序の変化や大衆化」について ◆日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのか理解する。	
10	世界恐慌	6	○第一次大戦と日本の対応 ◆第一次世界大戦は、日本を含む世界の人びとにとってどのような戦争になったのか理解する。	
11	第二次世界大戦と日本	6	◆欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものだったのか理解する。	
12	戦後国際秩序	6	○第二次世界大戦 ◆大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのか理解する。	
1	冷戦の展開	8	◆第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのか理解する。	
2	経済構造の変化	8	○冷戦で揺れる世界と日本 ◆冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような選択をしたのか理解する。	
3	冷戦の終結	4	◆冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたのか理解する。◆冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたのか理解する。	

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部		学 年	2 年
教科等名		産業社会と人間		学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		（知・技）社会生活に必要な力についての知識や技能を身に付ける。 （思・判・表）心身ともに豊かな社会生活を送るために考えを広げることができる。 （主）自己を認識し、自ら将来の自分や社会について考える態度を養う。			
担当教員		長岡優花			
年間授業時数		3 8 単位時間			
使用教科書		なし			
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）		指導の工夫
4	オリエンテーション 自己理解 自分の将来の生き方や進路	1 4	○キャリアガイダンス ○就労体験ガイダンス ○自分の生活を見直そう ○ライフプラン(卒業後の自分)設計 ◆就業体験の目的や学習内容を理解し、望ましい勤労観、職業観を培う。 ◆自分の長所や短所を客観的に考え、理解することができるようになる。 ◆読み手を意識し、お礼状を書く。 ◆社会で働く先輩の講話を聞き、高等部卒業後の生活に対して、具体的なイメージをもてるようになる。		・自分の考えをまとめたり、振り返ったりしやすいように、ワークシートを用意する。 ・自分の長所短所を客観的に理解できるよう、グループ内でも評価をし合う。
5					
6					
7					
9	社会生活への参加に向けて 弁論文作成	1 4	○就労体験ガイダンス ○進路講話会 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ○社会との関わりについて ◆社会生活や職業生活に向けて必要な基本的な知識と態度を身に付ける。 ◆社会で働く先輩の講話を聞き、自分の課題や目標について具体的に考えるようになる。 ○キャリアに関わるポートフォリオの作成 ◆進路と向き合い、現実的な将来観をもつとともに、その実現に向けた計画が立てられるようになる。 ◆キャリアプランニング能力を高める。		・ロールプレイ等を取り入れ、体験的に学習が進められるようにする。 ・弁論文作成時に書き始める前に、考えるためのメモを作成する。
10					
11					
12					
1	次年度に向けて	1 0	◆就業体験実習や様々な進路活動などの体験から学んだことをまとめ、発表できる。 ○今年度の振り返り ◆成長した点、まだ改善に向けて努力が必要な点を把握し、次年度の学校生活につなげられるようにする。 ◆物事を客観的に捉え、論述文が書けるようにする。		・自分の学んだことを発表する機会を設ける。 ・自己評価、他己分析を通して、自身の成長を客観的に振り返られるようにする。
2					
3					

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		公共	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		(知・技)自己と社会の関係性を理解し,社会参画に向けた意識を高める。 (思・判・表)社会参画する自立した主体としての生き方を表現する力を身に付ける。 (主)現代社会の諸課題について、その本質や原因を考察する力を身に付け、合意形成力を養う。		
担当教員		木下徹		
年間授業時数		70単位時間		
使用教科書		高等学校 公共（帝国書院）		
月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	青年期と社会参画	5	○公共的空間と人との関係,個人の尊厳と自主・自律,人と社会の多様性と共通性 ◆社会参画の主体としての生き方について意見を表明し自らのキャリア形成を図ろうとする。	・自らの悩みや体験,個人と他者,対話の重要性などを踏まえた具体的な問いを設定する。 ・学校や家庭,地域社会といった身近な日常空間に関連した具体的な問いを設定する。 ・抽象的な内容になりがちな理念や制度などは,生徒が考えやすい具体的な問いを設定する。 ・現在のしくみの矛盾点を見いだす視点等から,考察する主題を見つけ出し,具体的な問いを設定する。
5	宗教・思想・伝統文化と社会	5	○幸福,正義,公正,人間の尊厳と平等,個人の尊重,民主主義,法の支配,自由・権利と責任・義務 ◆互いに社会的存在であることを理解し,自他の価値観やそれらを形成する背景や要因について理解する。	
6	倫理的な見方・考え方	5	○法規範の意義と役割,契約や消費者の権利と責任,司法参加の意義 ◆法の基本的な考え方を理解し,法の意義や司法参加について関心を高める。	
7	社会の基本原則と憲法の考え方 参法の意義と司法加	5	○政治参加と公正な世論の形成,地方自治 ◆政治の意義や統治機構,よりよい社会を構成する取り組み,政治参加と公正な世論の形成,地方自治について理解する。	
9	②民主社会と政治参加	15	○国家主権,領土安全保障と防衛,国際社会における我が国の役割 ◆日本固有領土の問題の平和的解決や安全保障,国際貢献,日本の役割を理解する。	
10			○市場経済の機能と限界,金融の働き,財政及び租税の役割 ◆現代経済社会を実像から経済の機能と限界,金融,財政・租税の役割を理解する。	
11		15	○職業選択,雇用と労働問題,財政・租税の役割,少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ◆産業構造・社会保障の課題を踏まえ,職業選択,雇用と労働問題,少子高齢社会における社会保障の役割について理解する。	
12			○経済グローバル化と相互依存関係の深化 ◆経済のグローバル化と相互依存の深まり,国際社会における貧困や格差の問題などについて理解する。	
1	③豊かな社会の実現	8		
2	国際経済の動向と格差の是正	8		
3	持続可能な社会の実現に向けて	2		

令和5年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学 年	2 年
教科等名		数学Ⅱ	学習グループ (教育課程)	C (準ずる・進学)
ねらい		(知・技)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解する。 (思・判・表)基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養う。 (主)数学的な知識や技能を活用する態度を育てる。		
担当教員		福島 聡		
年間授業時数		1 4 2 単位時間		
使用教科書		新編「数学Ⅱ」(実教出版)		
月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい(評価の観点)	指導の工夫
4	方程式・式と証明	4 0	年間を通して、生徒の実態に合わせて学習する。 ○式の計算、複素数と方程式、式と証明 ・整式の乗法・二項定理・整式の除法・分数式・複素数・2次方程式・因数定理・高次方程式・等式の証明・不等式の証明 ◆整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにし、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	・負の数の計算、分数・小数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。
5				
6				
7	図形と方程式	2 0	○点と直線、円、軌跡と領域 ・直線上の点・平面上の点・直線の方程式・2直線の関係・円の方程式・円と直線・軌跡と方程式・不等式の表す領域 ◆座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習の内容を振り返る。
9				
10	三角関数	2 5	○三角関数、加法定理 ・一般角・弧度法・三角関数・三角関数の性質・三角関数のグラフ・三角関数を含む方程式・不等式・加法定理・加法定理の応用 ◆角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・生徒個々の実態に応じて、時間配分を調整する。
11				
12	指数関数・対数関数	1 7	○指数関数、対数関数 ・指数の拡張・指数関数・対数とその性質・対数関数 ◆指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
1	微分法と積分法	4 0	○微分係数と導関数、微分法の応用、積分法 ・平均変化率と微分係数・導関数・接線の方程式・関数の増減と極大・極小・方程式・不等式への応用・不定積分・定積分・積分と面積	
2				

3			◆微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	
---	--	--	---	--

令和7年度東京都立鹿本学園年間指導計画

部門・学部		肢体不自由教育部門 高等部	学年	2年
教科等名		自立活動	学習グループ（教育課程）	C（準ずる・進学）
ねらい		(知・技)自分の身体の状態を理解し、必要な知識を身に付ける。 (思・判・表)自分に必要な手立てを相談し、考えることができる。 (主)自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服できるようにする。		
担当教員		福永映子、長岡優花、福島聡		
年間授業時数		72単位時間		
使用教科書		なし		
月	単元 (題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい（評価の観点）	指導の工夫
4	身体 の 取 り 組 み	25	○身体を取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。	・校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・鏡を活用し、姿勢を確認できるようにする。
5				
6				
7				
9	身体 の 取 り 組 み	26	○身体を取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、膝歩き、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行、階段昇降 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆骨盤を起こして保持を行う。 ◆体幹を伸展させて座位を行う。 ◆重心を前方へ移しながら立ち上がる。 ◆足で踏ん張りバランスをとる。 ◆体幹・骨盤を回旋させて歩行を行う。 ◆手すりにつかまり1足2段で階段昇降を行う。	・校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・歩行器等の教具を使用する。
10				
11				
12				
1	身体 の 取 り 組 み	21	○身体を取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、膝歩き、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行、階段昇降、上肢操作 ◆筋緊張を緩めて筋を伸ばす。 ◆膝の中間の使い方を理解する。 ◆体幹を回旋させてバランスをとる。 ◆障害物に対応しながら歩行を行う。 ◆手すりにつかまり1足1段で階段昇降を行う。 ◆両手を使って教材を操作する。	・校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・iPadやパズル等の教材を使用する。
2				
3				